



自然観の比較と環境倫理

[キーワード: 環境倫理、政治哲学、環境教育、道德教育]

准教授 熊坂 元大

<研究の概要>

環境問題をはじめ、人間と自然との関わりや、この世界における人間の位置づけについて研究しています。幼少期にヨルダンと西ドイツ(当時)、研究を始めてからはドイツと台湾に滞在していたという個人的経験もあり、文化によって異なる自然観、人間観に興味があります。

とはいえ、現代ではさまざまな社会制度や文化が絡み合っている状況で、単純に「社会によって違うんだね」と面白がってばかりもいられません。また、自分たちと違う考え方に会ったときに、自分の文化に従わせようとしたり、反対に「うちの文化はこうなんだから口を出さないでくれ」と突っぱねるだけでは、かえって対立を深めることにもなりかねません(捕鯨問題などはその好例でしょう)。

そうなると、私たちは違う考えの持ち主に対して、共感したり同意したりはできないまでも、「なぜ相手はそう考えるのか」、「どういう理屈でその考えが組み立てられているのか」ということを理解する必要があります。言い換えれば、話し合いのためのテーブルを準備するということです。多くの社会問題についての議論を見てみると、この準備ができないままに、自分たちの意見を押し通そうという姿勢で発信されていることが珍しくありません。

この問題意識から、環境問題や捕鯨、肉食などを題材に倫理学理論の研究をしてきました。現在は、行為規則よりも、人びとの性格や態度に焦点をあてた徳倫理的アプローチについて検討しています。

<主要研究業績>

・熊坂元大(2018年)「多様性の環境倫理に向けた環境徳倫理学の理解」、福永真弓・吉永明弘編著『未来の環境倫理学』勁草書房、91-104頁。

・熊坂元大(2017年)「『動物のいのち』におけるエリザベス・コストロのふるまいから考える交感と受傷性の倫理』『環境思想・教育研究』第10号、環境思想・教育研究会、136-143頁。

・熊坂元大(2016年)「環境問題を『道徳的に考えること』を考える」、尾関周二・環境思想・教育研究会編『「環境を守る」とはどのようなことか——環境思想入門』岩波書店、16-25頁。

・熊坂元大(2016年)「環境徳倫理学研究における環境徳と受傷性<Vulnerability>』『総合人間学』第10号、総合人間学会、171-180頁。

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- ・衣食住の地域文化と環境保護
- ・倫理的消費
- ・道德教育

専門分野 : 環境倫理学、比較倫理学、政治哲学

E-mail: kumasaka@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7150

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/261534/profile-ja.html>